

へいちくウォーク

第13回 勾金駅—田川伊田駅 平成27年7月19日

勾金駅

香春町勾金。明治28年8月15日開業。大正5年、駅舎改築。国鉄田川線時代はセメント原料の石灰石の出荷駅だった。

鎮西八郎為朝屋敷跡

為朝の本名は源為朝＝みなもとのためとも。保延5年(1139)―嘉応2年(1170)。平安時代後期の武将、源為義の八男。13歳の時、九州に下り豊後白杵を本拠に九州各地を転戦、鎮西八郎と称した。

仁平元年(1151)、ここ勾金南大原に館を造り、久寿2年(1156)までの5年間、滞在して北九州を支配した。その後、上洛し平清盛軍を撃退したあと伊豆大島に流され嘉応2年(1170)自害した。32歳。

鎮西公園

大正8年、田川郡立公園として設置された。朝倉文夫の設計。施工費の大部分は蔵内次郎作(炭鉱主・衆議院議員)の寄付によるもの。作業は郡内の小学校高等科児童、中等学校生徒、青年団などの協力奉仕で完成した。伊田商工青年会有志によって桜が植えられ、満開の桜は人々を楽しませる。入口の「鎮西公園」碑は、小笠原長幹の書。裏面の撰文は末松謙澄。戦前までは田川郡の運動会などの諸行事が開催されたが、戦時中、グライダーの滑走練習場となり、戦後は自動車教習場となるなど荒れ果てている。田川護国神社は大正8年、伊田村から移転、平成2年に改築された。

天台寺跡(上伊田廃寺)

天台寺遺跡は鎮西公園のほぼ全域が寺域で、田川地方唯一の古代寺院跡である。昭和18年、グライダー滑走練習場にするために、伽藍の基壇は破壊されたが、この時、おびただしい量の新羅系、百済系、高句麗系の古瓦が出土した。その出土品は香春町町民センター内歴史資料館に展示されている。昭和60―63年の発掘調査で、金堂と講堂が南北に並び、金堂の東側に回廊と塔が重複している特異な伽藍配置が確認された。

成道禪寺

縁起によれば、当寺は弘仁5年(814)、伝教大師(最澄)の創建とされる。当初は天台別院浄土寺と称し、山頂に白鳥大明神を祀り当院の守護神とし、鎮西の名刹として栄えた。伝教大師(最澄)は、延暦23年(804)、遣唐使一行と共に入唐するに際し、宇佐八幡宮と香春神社に詣でて、航海の安全を祈願。翌24年に無事、帰朝すると、再び、香春神社に詣で、天台別院十八伽藍を建立した。この十八伽藍の一つが成道寺という。

その後、南北朝から室町期にかけて戦乱の渦中にまきこまれ、堂塔伽藍を焼失し、天台寺院としては衰亡し、やがて、曹洞宗(禅宗)として再興された。これは、周防の大内家が北部九州を勢力下におさめた関係上、長門湯本の大寧寺の末寺に組み込まれ、寺名を浄土寺から成道禪寺と変えて現在に至っている。

田川市石炭・歴史博物館

博物館は石炭資料館として昭和58年3月にオープンした。15000点の資料を収蔵し炭鉱の歴史を紹介している。館に隣接して、産業ふれあい館があり、かつての炭都・田川を後世に伝える遺産として明治、大正、昭和の炭住(炭鉱住宅)をそれぞれ一棟ずつ復元している。

石炭記念公園

二本煙突と堅坑櫓など旧三井田川炭業所の遺構が残る一帯を田川市が公園としたもの。かつて国内最多の出炭量を誇った筑豊炭田の面影を残す遺跡公園である。

二本煙突は明治41年(1908)に完成。高さ45.45メートルで、最下位部の直径は5メートルもある。2本で計21万3千枚の耐火用レンガが使われた。「あんまり煙突が高いので」と炭鉱節に歌われた煙突

伊田堅坑櫓は、二本煙突完成の翌年の明治42年(1909)に完成した。高さ28.4メートル。エレベーターのような箱形のケージを昇降させ、炭鉱労働者らを地下約300メートルまで送り込んだ。

二本煙突と堅坑櫓は平成19年6月、国の登録有形文化財(建造物)に登録された。

<次回は9月20日(日)10時 田川伊田駅集合。構駅まで4キロ歩きます>

